

印西大師 番外 下曾根新田・大日堂（市杵島神社）

1 名称 (No.120/234)〔手引鏡：大日堂〕〔資料館：大日堂〕〔行程表：大日堂〕

2 場所 印西市下曾根7 市杵島神社・下曾根集会所
船戸堤から道程約490m

GPS座標 35.81442085402207, 140.20947824126782

3 由緒 天台宗 大日庵

大字下曾根字上にあり 天台宗にして南陽院持なり
大日如来を本尊とす 由緒不詳 堂宇間口三間奥行二
間境内十坪 檀徒11人（本埜村誌）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が3体あり。
印西市調査報告書によると、右前の御大師様には嘉
永5年(1852年)の銘がある。

5 境内 下曾根大師堂のほか、市杵島神社と下曾根集会所がある。

6 写真 (2022.11撮影)



大師堂



御大師様(左)



御大師様(右)



下曾根大師



御大師様の台座



大師堂(左)と市杵島神社(正面)と集会所(右)

7 情報

(1) 本埜村誌による市杵島神社と大日庵

本埜村誌によると、「村社市杵島神社」は、大字下曾根字上七番地にあり 市杵島命社を祭る 由緒不詳 氏子11戸とあり、また、「大日庵」は、大字下曾根字上にあり 天台宗にして南陽院持なり 大日如来を本尊とす 由緒不詳 堂宇間口三間奥行二間境内十坪 檀徒11人とある。大日庵の番地の記載はないが、下曾根上の堤防に沿った集落の中に御堂を建てるとなると適地は自ずと決まってしまうであろうと思われるので、本埜村誌の書かれた大正初期には、市杵島神社と同じ場所に大日庵があったのではないかと考えられる。しかし、現在、大師堂は「下曾根大師」講の額が掲げられて健在であるのに、大日如来を祀る御堂（大日堂）が見当たらない。下曾根集会所の中にお祀りしているのだろうか。そうであるなら現在でもここが下曾根新田・大日堂(大日庵)で、下曾

根大師の額が掲げられた御堂は「下曾根新田・大日堂」の大師堂ということになる。

(2) 札所間の距離

手引鏡では、南陽院→2丁3間(224m)→船戸堤→2丁3間(224m)→下曾根新田大日堂→2丁3間(224m)→行徳新田稻荷堂(計672m)とあり、みな等間隔である。現代の地図によりGoogleマップで計測してみると、南陽院→230m→船戸堤→490m→下曾根新田大日堂→220m→行徳新田稻荷堂(計940m)となり、約300m余り長い。船戸堤と下曾根新田大日堂の間が合致しないためである。昔の道は、迅速図(右図)を見ると現在の道とほとんど変わらないので、なぜ合致しないのか。船戸堤の御堂の位置がもう少し南だったのだろうか。

